ASUKA COMICS

JET

花に恋して候へば

3





ASUKA COMICS

花に恋して候へば
3

JET

角川書店

あすかコミックス

はなにこひしてさうらへば

花に恋して候へば

ジェット
JET

第3巻



花に恋して候へば



花龍

端倉幻兎
(清十郎)



鳥の渡るる暁の空

前巻までのあらすじ

時代は元禄、江戸は吉原を騒がせた阿片騒動は、「花」「鳥」「風」「月」の刺青を持つ女を捜す弓月嵐童が元凶だった。その騒動の中で、花龍に「花」右近太夫に「鳥」の刺青があることが発覚。

そんな中、吉原に放火騒ぎが起こる。犯人は「風」の刺青を持つ少女、初太郎(初音)。吉原と端倉幻兎の裏切りが、黄楊の郷襲撃の原因と考えての行動だった。そして、花龍・幻兎と敵対する嵐童に与してしまう。

風流れ 流れ着きしは那辺の果てより



大黒屋庄六



弓月嵐童
（野田検校）



右近太夫

月ぞ哀しき 花に恋する人ぞ哀しき――

残る「月」の刺青の持ち主は未だ現れないが、幻兎の妹で、兄と同じく銀色の髪を持つ月女にその可能性があるらしい。だが、幻兎が去った後の黄楊の郷に月女の姿はなく、また屍体もなかった。目も見えず体も動かせない月女は、いったいどこへ行ったのか…!?

一方、嵐童の元には〝月の姫〟と呼ばれる銀髪の女がいた。彼女こそが幻兎の妹・月女なのか!?

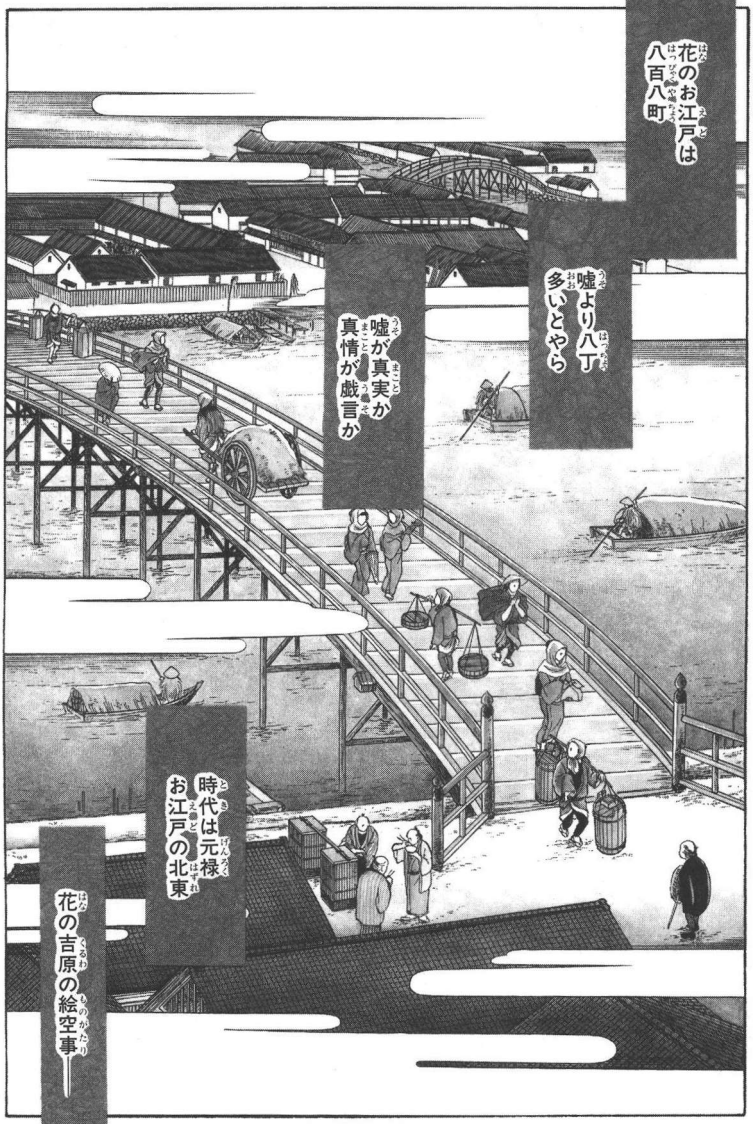
吉原と黄楊の郷の関係、黄楊の郷を襲撃した者の目的と正体、「月」の持ち主。そして4つの刺青が揃った時に起こること…。

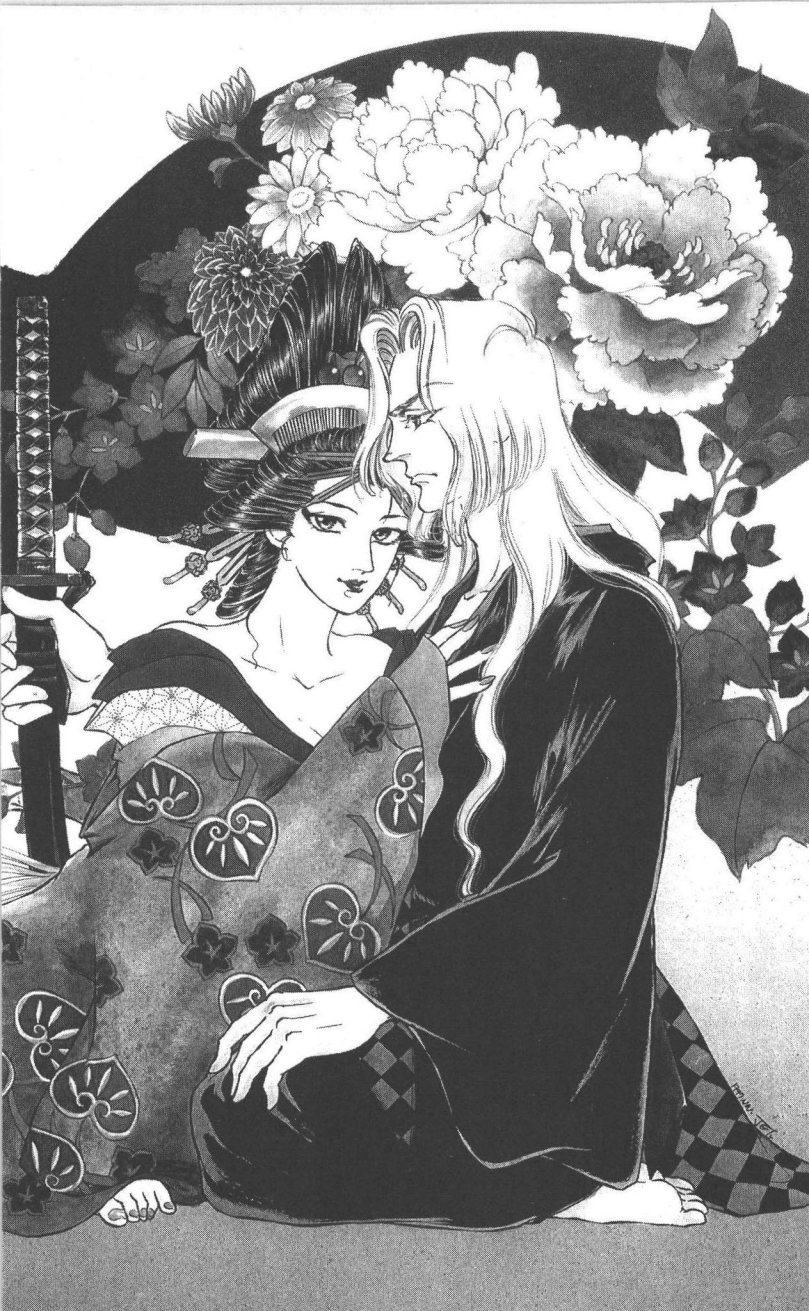
吉原を騒がす数々の謎の全貌が今、解きあかされる！



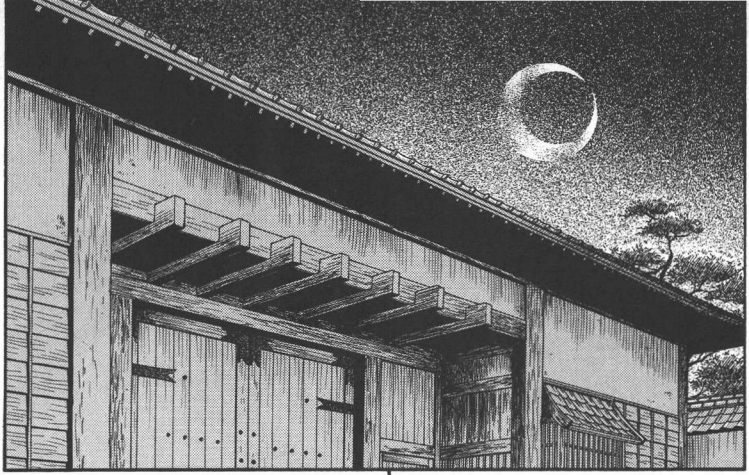
目次

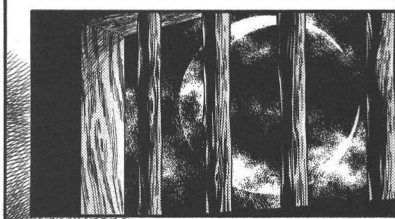
花に恋して候へば　月の段……5
イラスト・コレクション……187
あとがき……191


花のお江戸は
八百八町
嘘より八丁
多いとやら
嘘が真実か
真情が戯言か
時代は元禄
お江戸の北東
花の吉原の絵空事




花に恋して候へば
～はなにこひしてさふらへば～
月の段
つきのだん

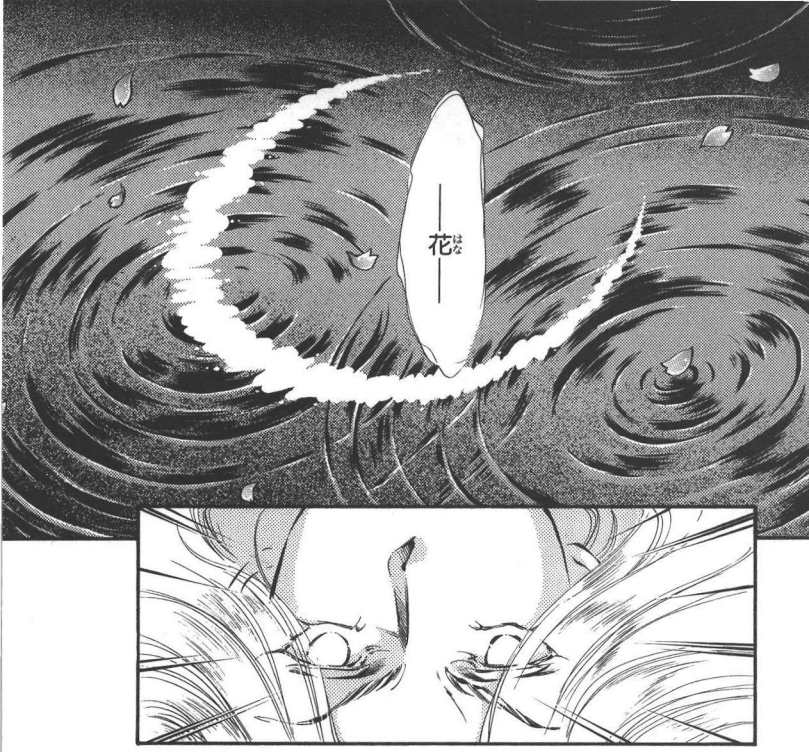


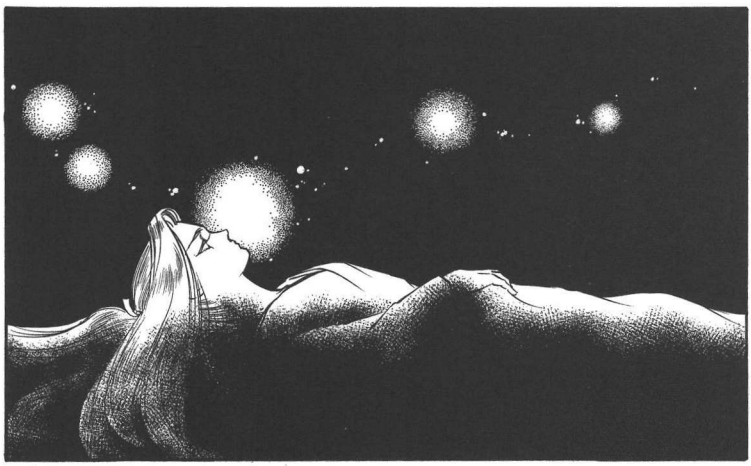


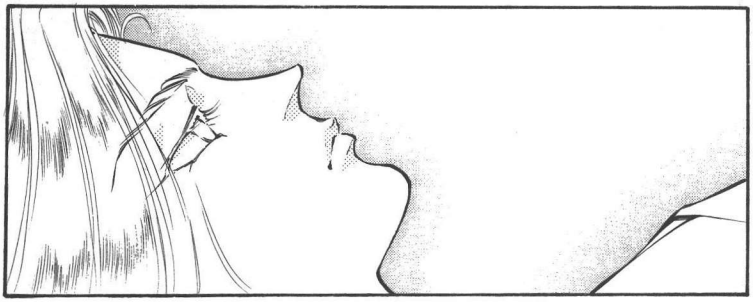


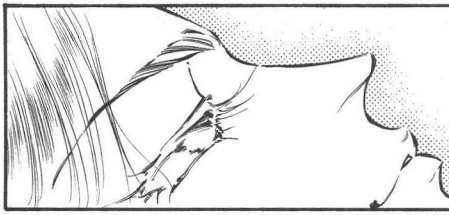

すう…
…ま
ジタバタしたってしゃあねえ


…ああ…
またこの夢だ
近頃よく見る
…鮮やかな…


――花(はな)――







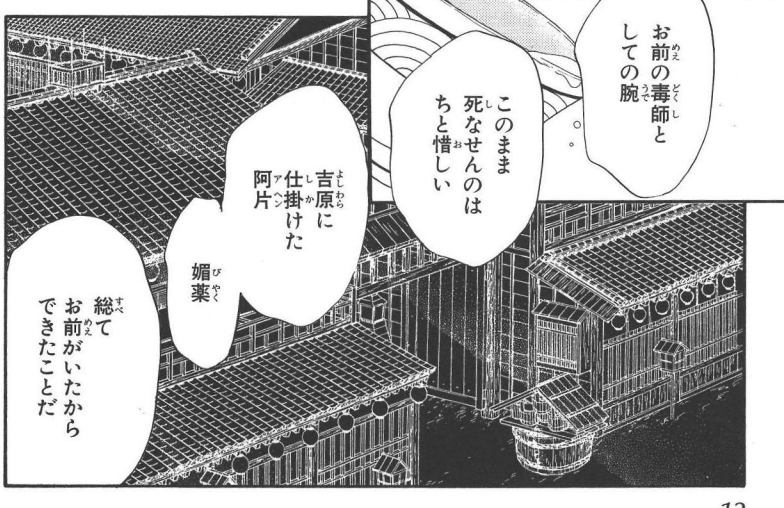
…幻鬼(げんと)にいさま…



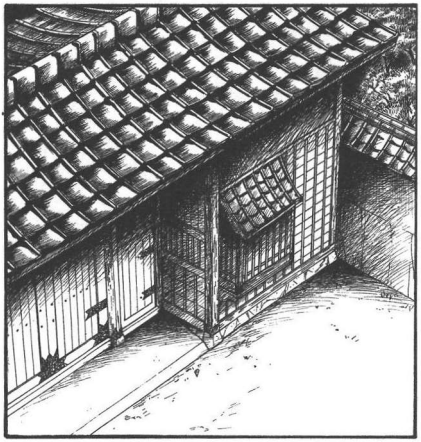





思いなおさねえか？


お前の毒師としての腕。。。
このまま死なせんのはちと惜しい
吉原に仕掛けた阿片媚薬
総てお前がいたからできたことだ


……
阿呆(アホ)どした
まあいい

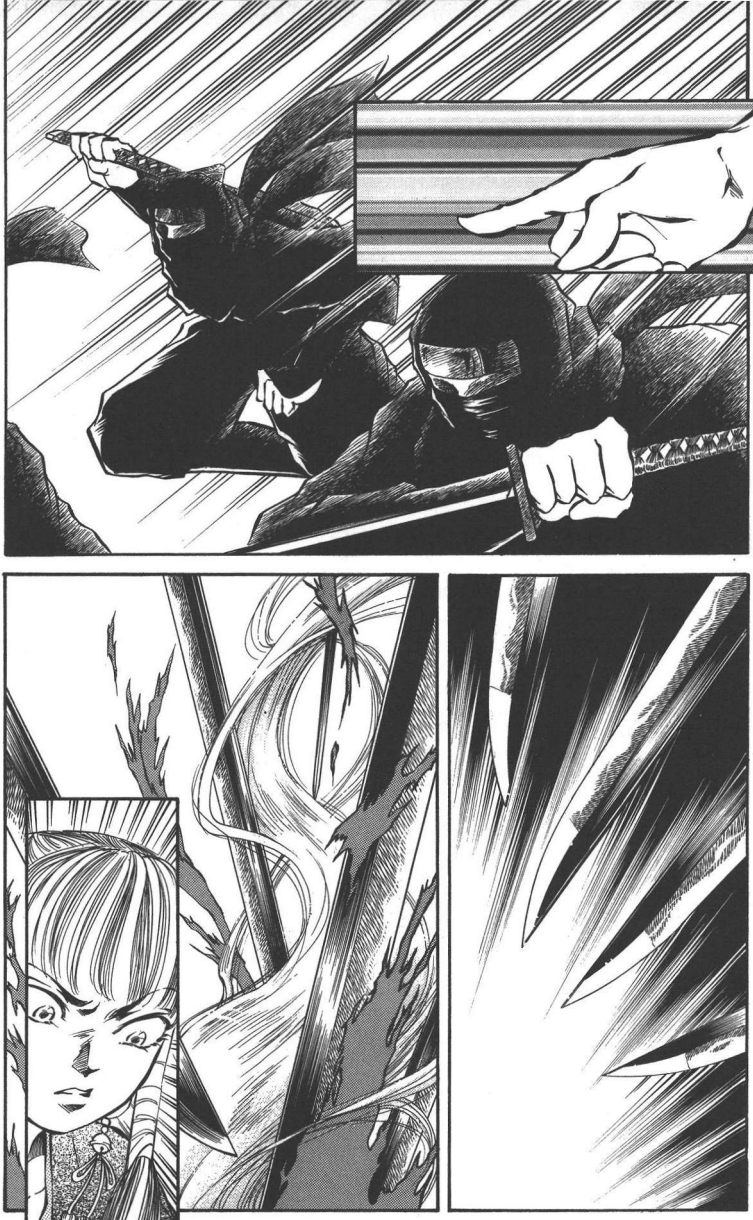




ビッ

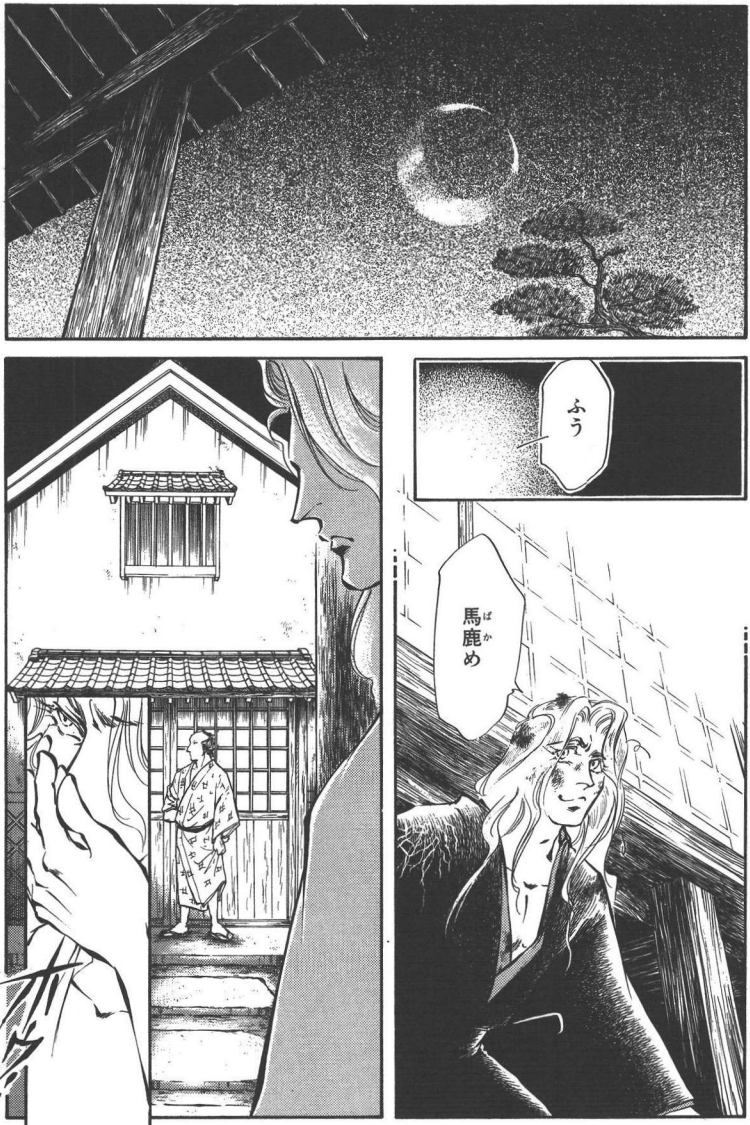
〝鳥〟の刺青を
写すまでは
舌でもかまれては
一大事だ


馬鹿め
月光で
ド派手な髪が
まる見えだ

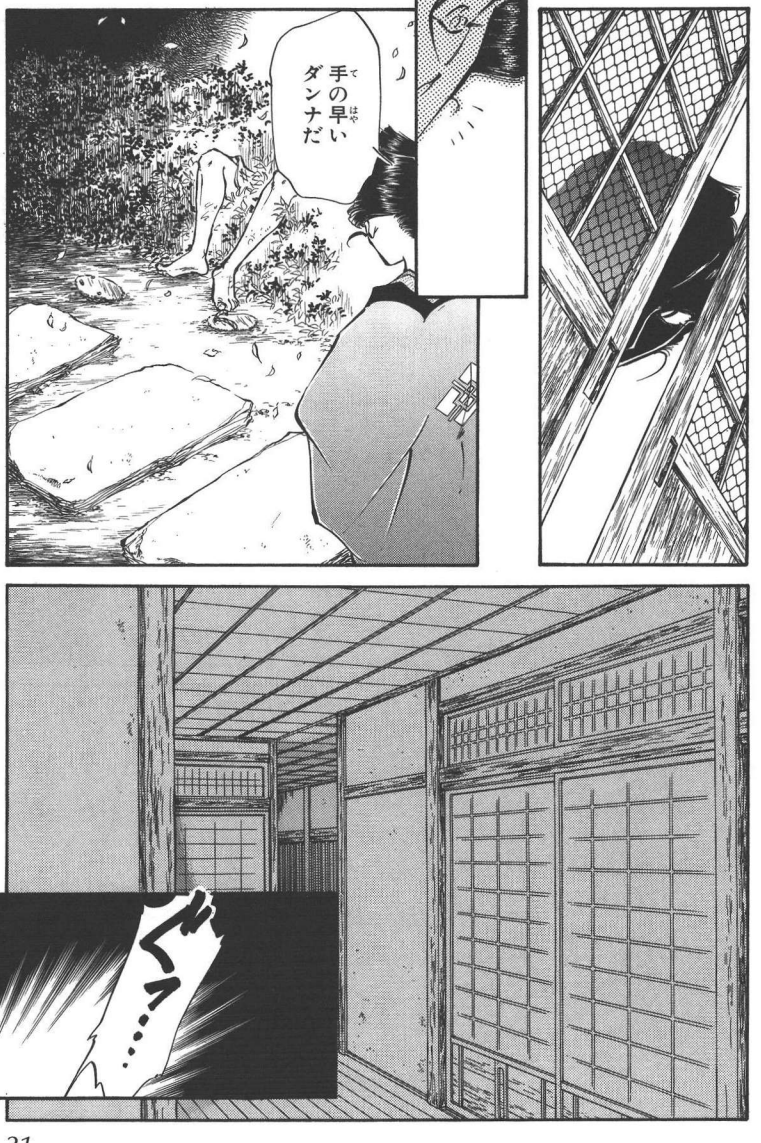



何(なに)ィ!?
あっち!!

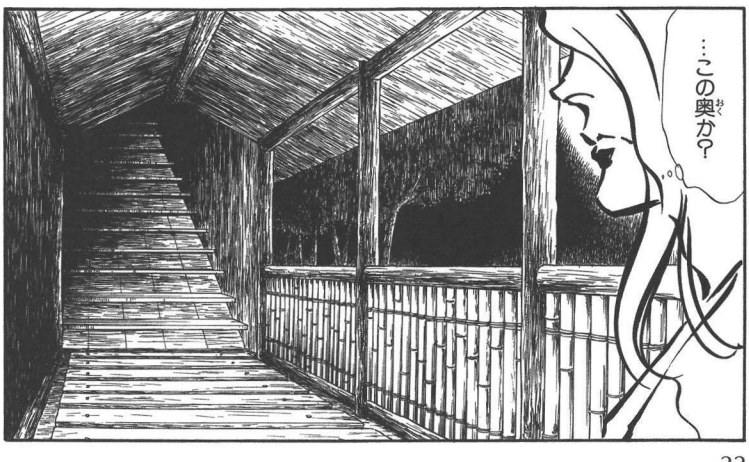
殺てまえ～!!


ふう
馬鹿(ばか)め

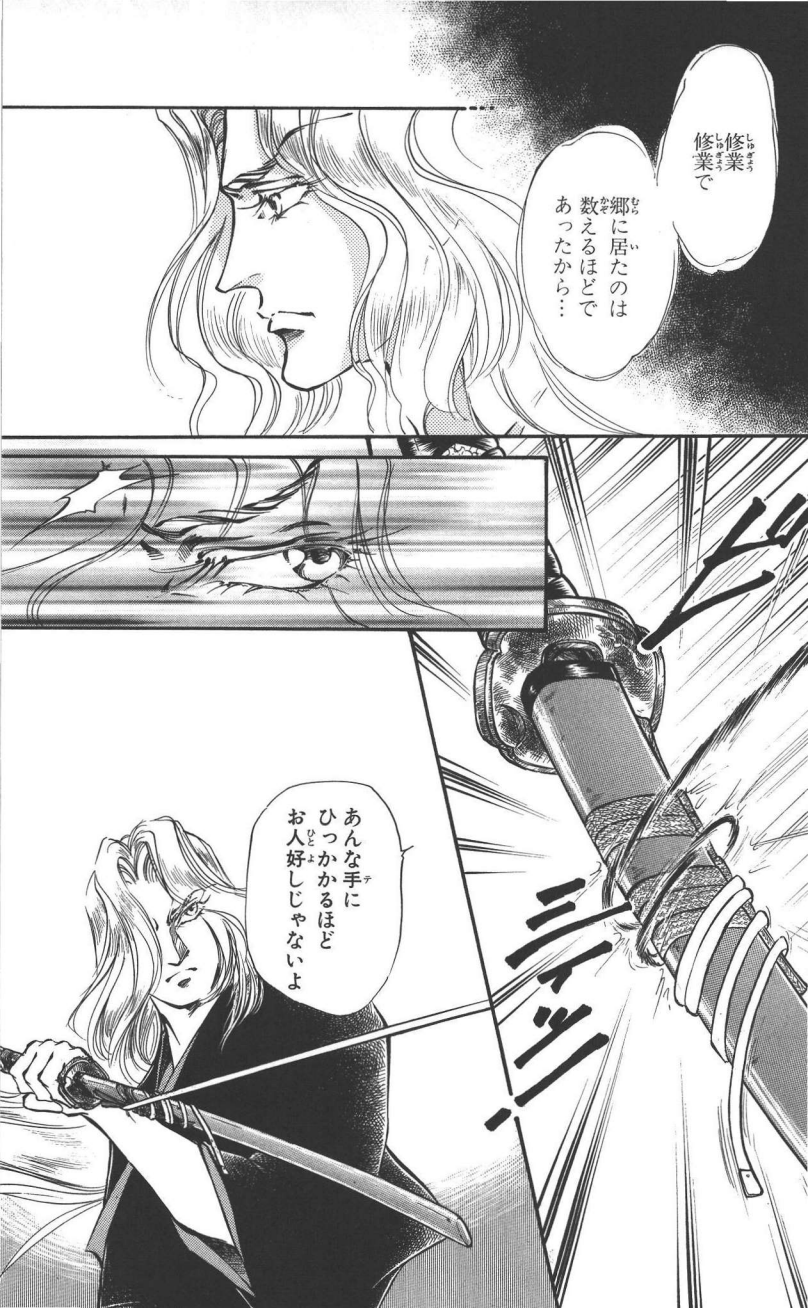

ガッ!!
……
ガッ
ガッ


手の早いダンナだ
ぐっ……


ズッ


…この奥か?


…権左さん…
私は…
心の冷たい兄
なんだろうな…
…あの…
手を触れれば
壊れそうな娘が
怖いんだ
いや
『接し方が解らぬ』と
いうべきか


修業
修業で
郷に居たのは
数えるほどで
あったから…
ミィン…
あんな手に
ひっかかるほど
お人好しじゃないよ




カ
レ



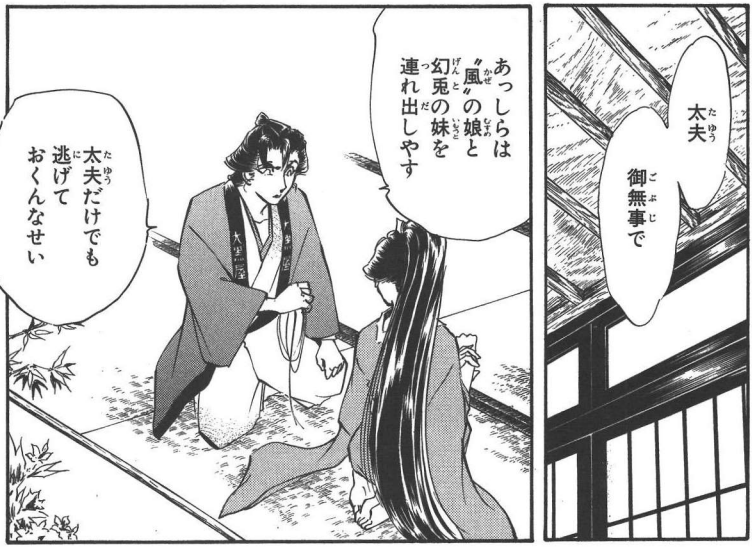

「当然、その覚悟中。」


にこ
さがす手間がはぶけた


…〝信じろ〟とは
言わんが

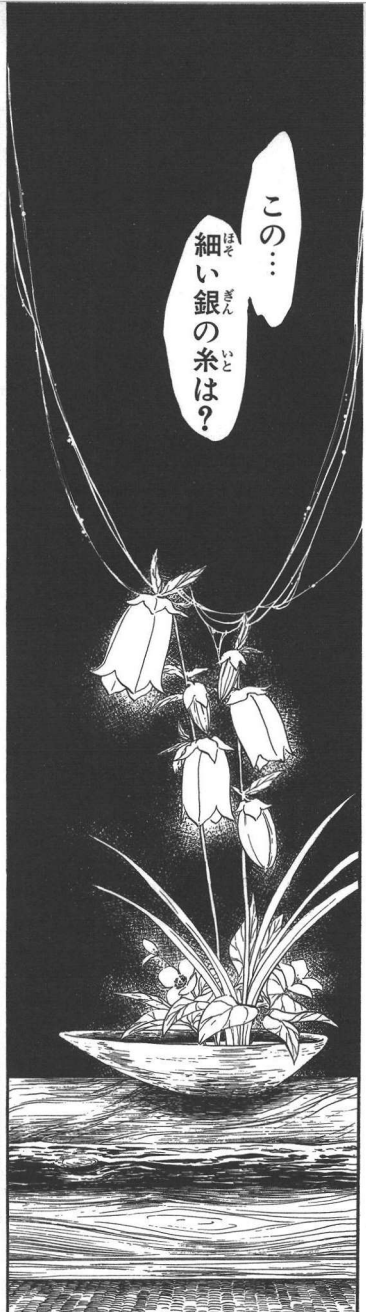

こちらの言い分も聞くのがスジってもんじゃないか？
大田


！
大黒屋
大黒屋


太夫
御無事で
あっしらは
〝風〟の娘と
幻兎の妹を
連れ出しやす
太夫だけでも
逃げて
おくんなせい


わてにも
手伝いくらい
させておくれやす
足手まといには
ならしまへん!


どうぞ——
!?
これは…？

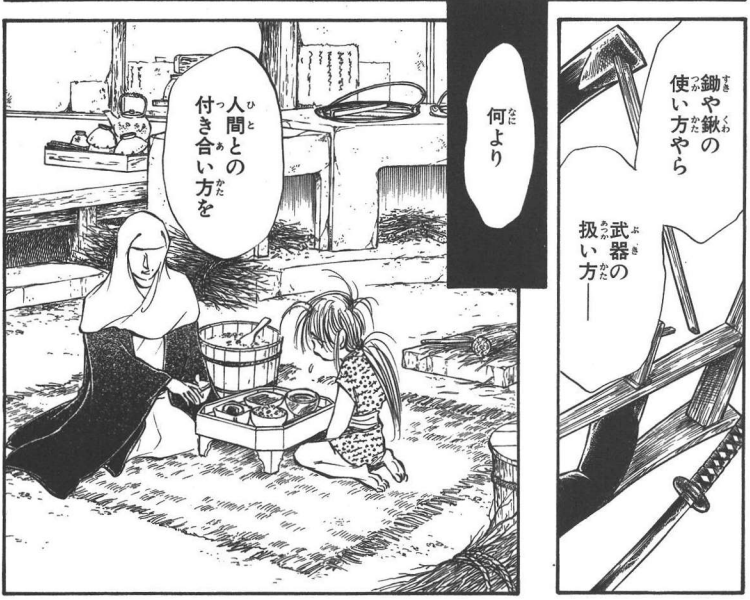




…もう1年近くになるか…




……
郷の連中は
俺に
色んなことを
教えてくれた


鋤や鍬の
使い方やら
武器の
扱い方――
何より
人間との
付き合い方を


月照院さまは
優しい人
だったよ
俺は
忘れねえ


あの
地獄のような
景色を——


まっ赤な炎のなかに浮かびあがった
あの――
悪鬼みてえな姿を――


銀色の長い髪が
火と血に
赤く
照り映えて
やがったのを——




馬鹿者!!
うすれていく
意識のなかで
聞いた
かすかな声——
俺が欲しいのは
背中の刺青だ!
女の
悶え狂った背に
血行が
浮かびあがらせる
白粉彫
死人に
どうやって
血を通わせる!?
かくし刺青?


……なら
…俺にも…
――目が覚めた時――
地獄は
白く
静まりかえって
たよ…


…あの時
お前は
何をしてた？


お前が手を下していないなら
身の証明をたててみろ!!
……郷へ向かっておった
母に
月照院に呼ばれたゆえ
何だと!?


呼ばれた!?
どうやって!?
出鱈目(でたらめ)
こきやがって!!
……
母(はは)は何故(なぜ)
見(み)も知(し)らぬ
お前(まえ)さんを
信(しん)じたと思(おも)う?
…母(はは)は
不思議(ふしぎ)な女性(ひと)
だった…
人(ひと)の心(こころ)の
清濁(せいだく)を知(し)り
癒(いや)しの心(こころ)を
持(も)った人(ひと)だった


はるか遠方に
おるはずの
母の声が
心の中に
届いた時
私は
少しも不思議には
思わなかったよ


お館さま～!!
月照院さま～～～～!!
母上!?


…幻鬼…
母上!?
…江戸へ…
吉原へ
行きなされ…
大黒屋庄六どの
を尋ねて……


そこに
お前の運命が
待っております…
母上!!
いけないっ


ハッ
ハッ
幻兎さま
清十郎…
月照院さまは
何と


…江戸へ
向かえと…
吉原に
お前の運命が
待っている
――と
お先に
御免!!
清十郎!?
――そして――

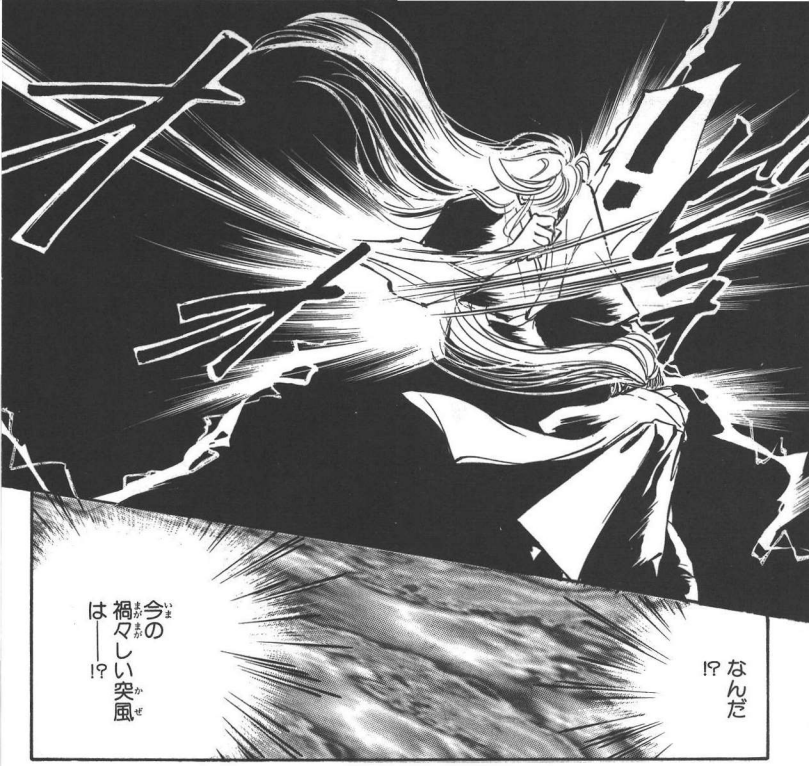

私は
幼い頃からの
朋友も失った
今でも
この手に
感触が
残っておる


母の意志を
現したような
あの
冷たい炎と
焼けくずれていく
身体——




…じゃあ
俺の見たのは
何だったんでえ?


まさか
半病人の
お前の妹だとでも
言う気かよ!?
…まさか
口先だけなら
何とでも
言えるさ
……
ザワ…


なんだ!?
今の禍々しい突風は――!?


う
わっ
ああいいよ!!






駄目ヨ…
逃ガサナイ
絶対


雪!?
空は晴れているのに——


なんだ
この圧迫感は――!?
――誰だ
お前――?
大
オ


ニヤリ。




何を仕掛けやした？
怪しの術



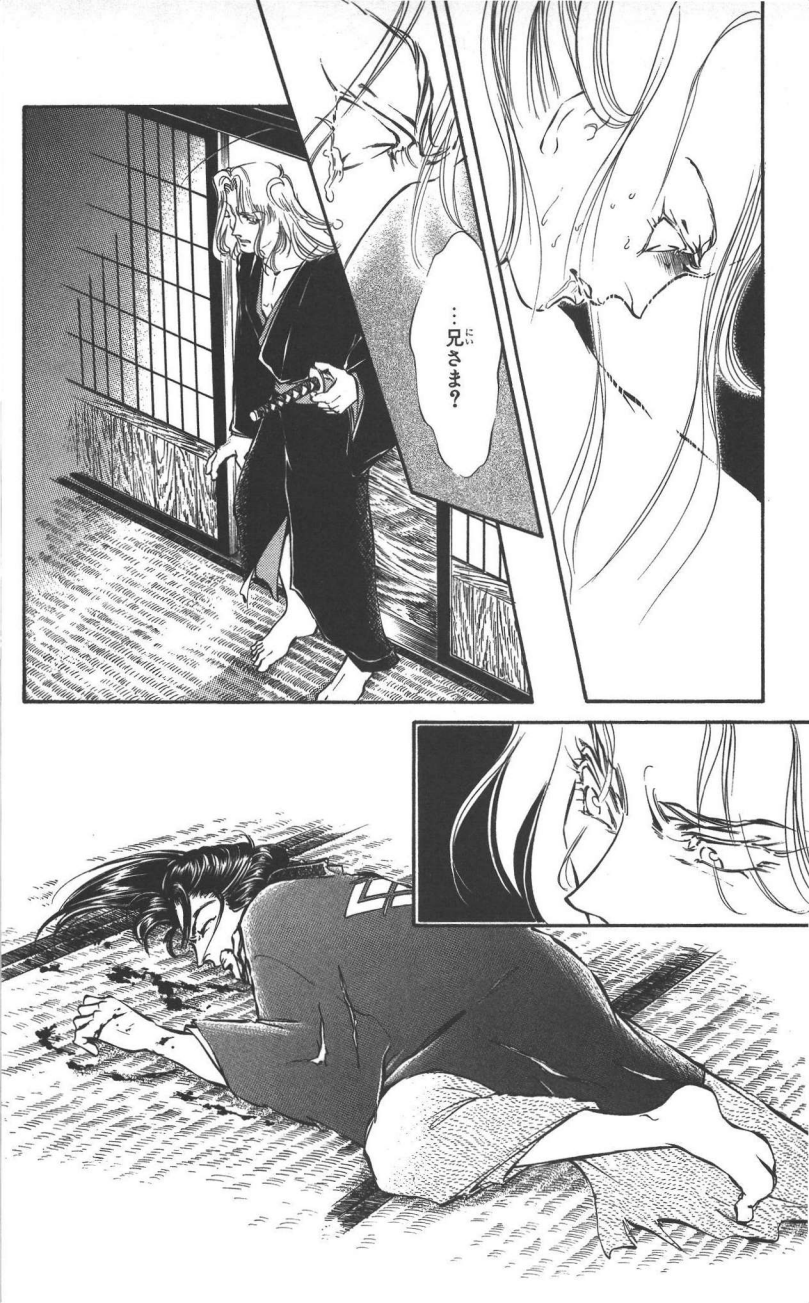

ガワッ!!
血飛沫


あんたの
負(ま)け
どす


幼い頃から
この身体に
しみこんだ毒は
わての血すら
汚しとる


ガッ!


ヒィエ
ヒィエ
…月女(つきめ)
……？


…兄さま?


!!
花龍!?
…怖いんだ


手を触れれば
壊れそうな
…兄さま
兄さま?
——あの娘が——
…それは誰?
どうして——


どうして
私(わたし)じゃないの!?



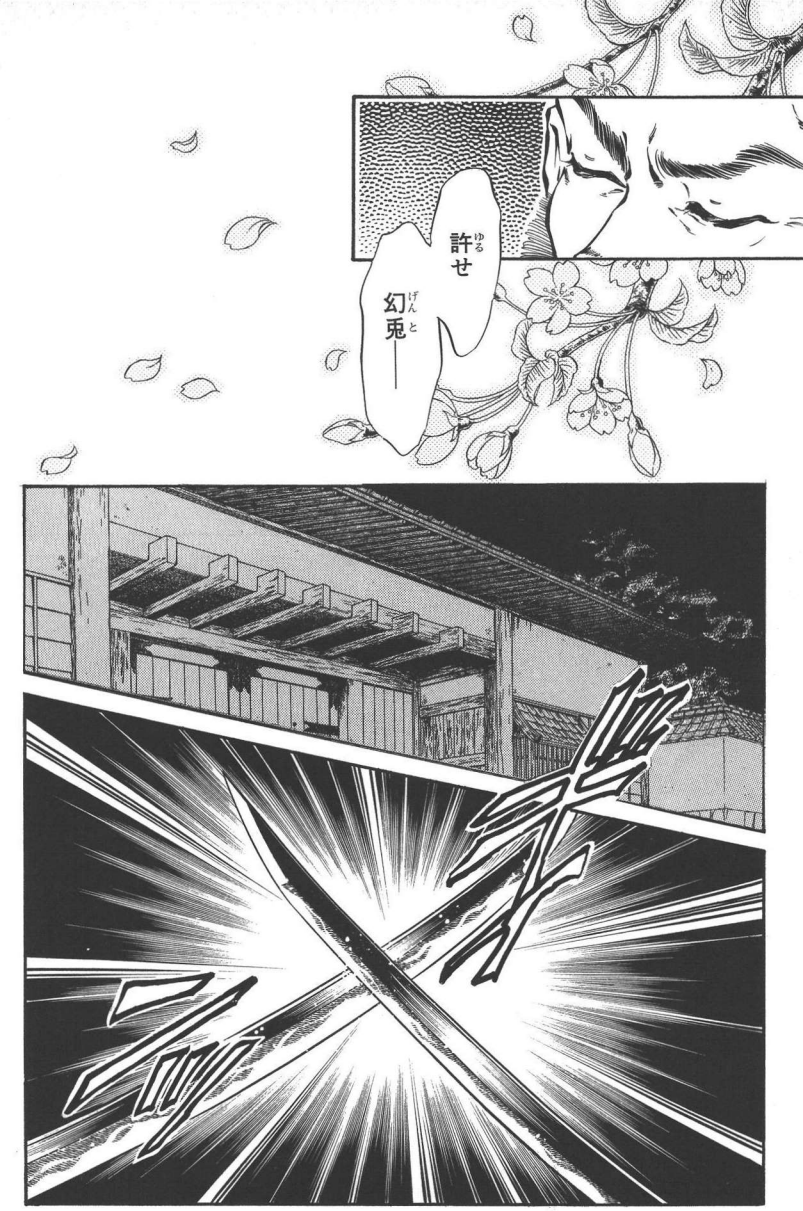

——月女(つきめ)?
月女(つきめ)——

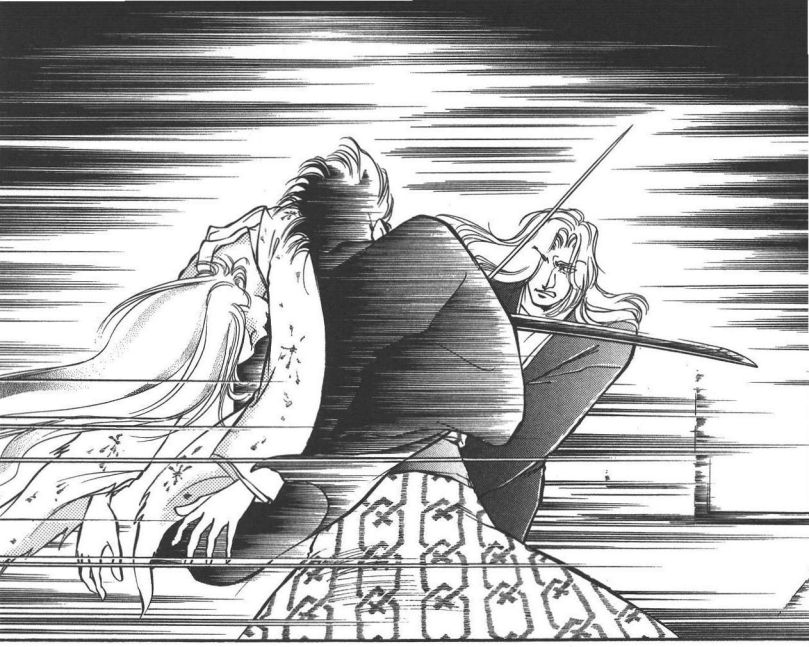

ズバッ
ズッ


この女は
俺のものだ
貴様のような
薄情な輩には
渡さん

ギン
大鳥屋


――許せよ
月照院


許せ
幻兎(げんと)——



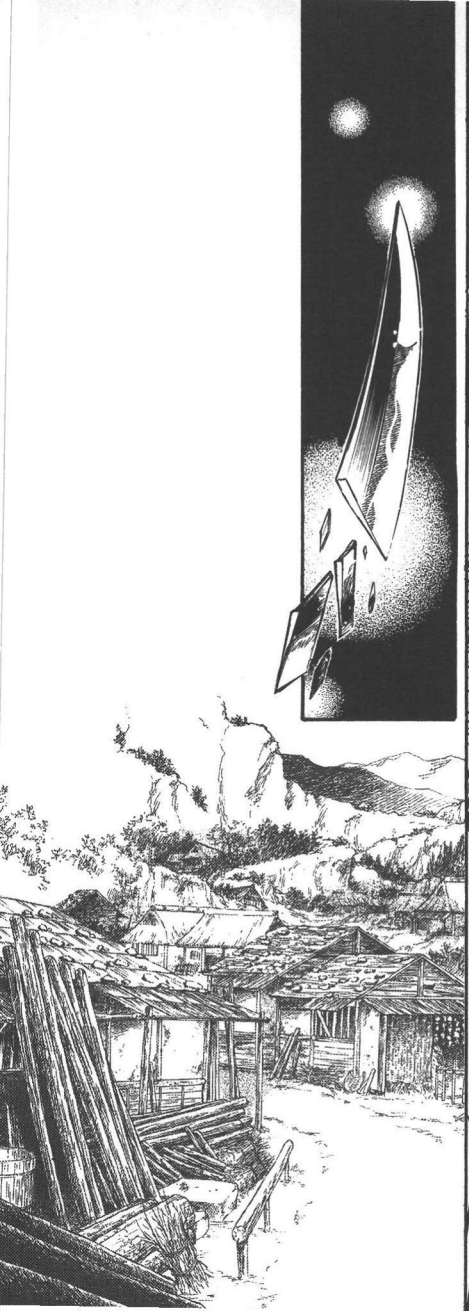

――月女を
妹をはなせ！


こいつが
貴様のことを
想って
泣き悶えていた時
抱いてやったのは
この俺だ


お前は
この女の何を
知っている？


この女の内の
凍った心を
濁った血を
実の兄を
恋情の対象に
選んだ狂気を
知っているのか？


聞こえなかったのか
お前には
あの
悲鳴が
――悲鳴？
俺には
はっきり
聞こえたさ
俺も
こいつと同じ
人種だからな


あの
黄楊の郷に
拒まれて
あの村を
ぶっ壊すことだけを
考えて生きてきた――!!



…あんな小さな村だ




俺様の両親は
その禁を
破った
しかも
俺という
子供まで
成したんだ

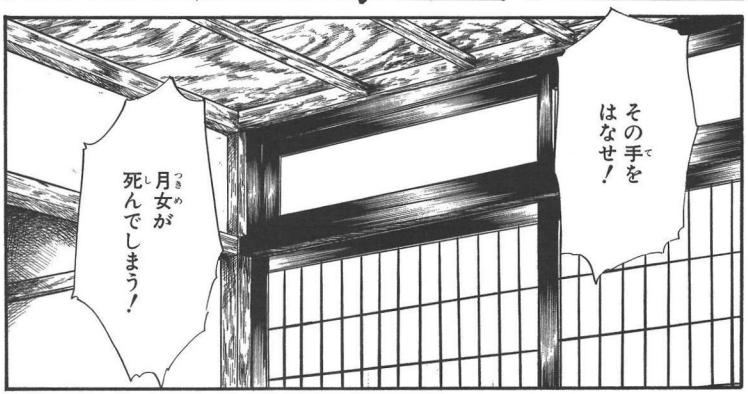

親父は
見せしめのため
不能にされたんだとさ
罪の子は
処分された——
はずだった
笑わせるじゃねえか？


その断を下した
村長さまの
娘が
20年も経たずに
同じことを
しようとしたんだ
そりゃあ
月照院さまは
大慌てだろうさ
娘を座敷牢に
閉じこめ
無論 兄貴は
村の外へ
追い出した
修業だ
なんだとな




嘘だ!!
母はそんな人間ではない
出鱈目を抜かすな


ウッ!
ボホ
月女!?
ボッ


その手をはなせ!
月女が死んでしまう!


それが
どうした
――なに？


あとは
貴様とこの女
だけだ
それで
郷の生き残りは
いなくなる
この古傷の
痛みも消える

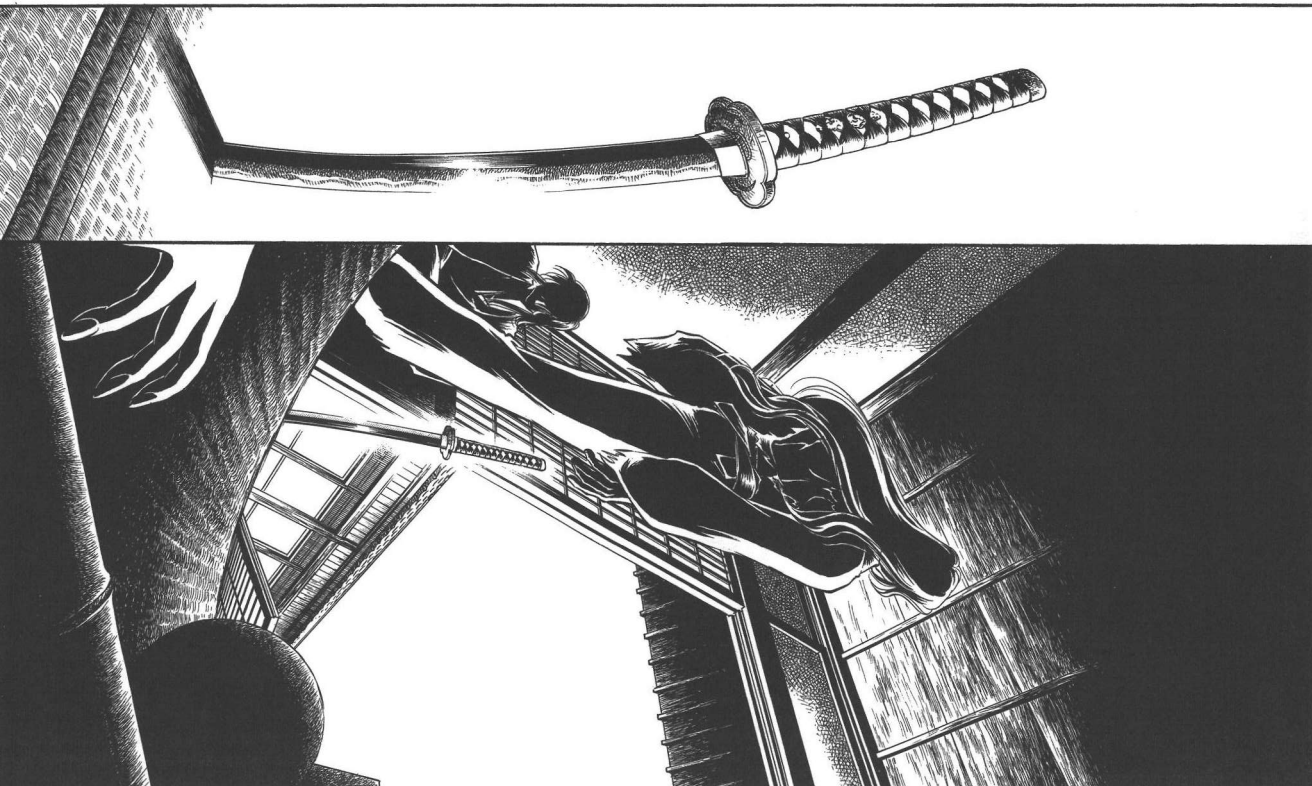

つ・い・で・に
郷の連中が
護ってきた
四つの刺青
どんなお宝が
かくされてるのか
知らんが
そいつも
俺様が頂く
死人には
不要の代物だ


ダ
邪魔をするなら
吉原もぶっつぶす
出直しだ
酔いが
覚めちまった


——俺がどんな思いをして生きてきたのか
お前に話したところではじまるまい


ただ
復讐の刃の
向ける先を
俺に教えてくれた
この
愚かな女には
感謝してるよ
!
月女が――?
そうさ
お前の妹が
俺達を導いて
くれたのさ
あの郷へ
自由になりたい――
愛しい兄貴に
会いたい一心でな


…俺のせいだと
云うのか
母が
死んだのも
村の皆が
死んだのも
あの
美しい郷が——
そう思って
漫りたければ
好きにしろ




ホウッ
…大丈夫かねえ
幻さん——


いてえっっ
もうちっと
優しくできねえ
のかい!?
痛うのうては
お薬は
効きやせん
……
右近太夫の
様子はどうだい?
大黒屋
大黒元左

…わかりんせん

眠ったきりで…

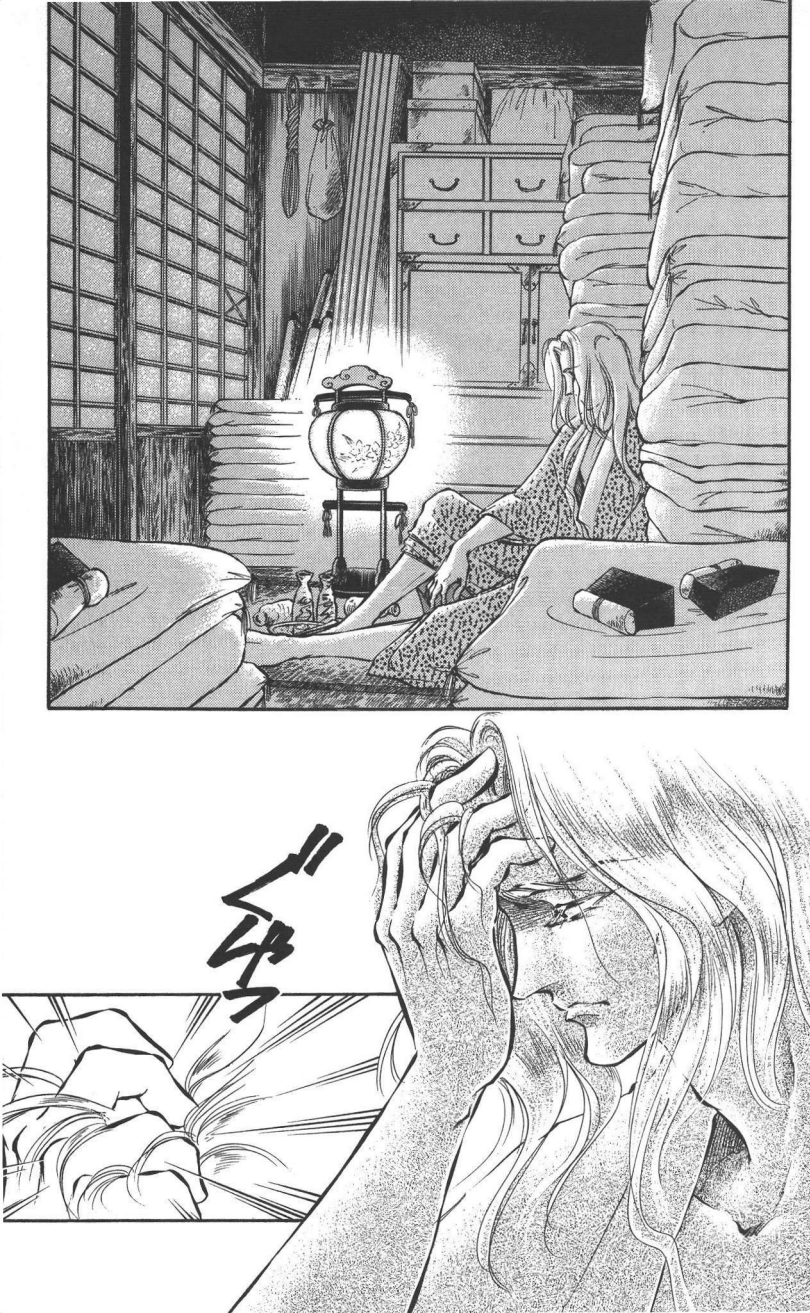
…あの傷では治ったところで花魁は無理かもしれやせんな

背中の刺青に傷が少なかったのが救いといえば救いか——

ばんっ

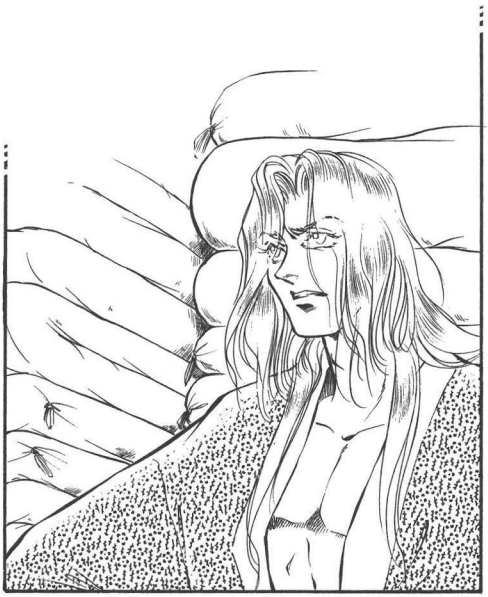
いつの間にそんな薄情な口をきくようになったんでえ？

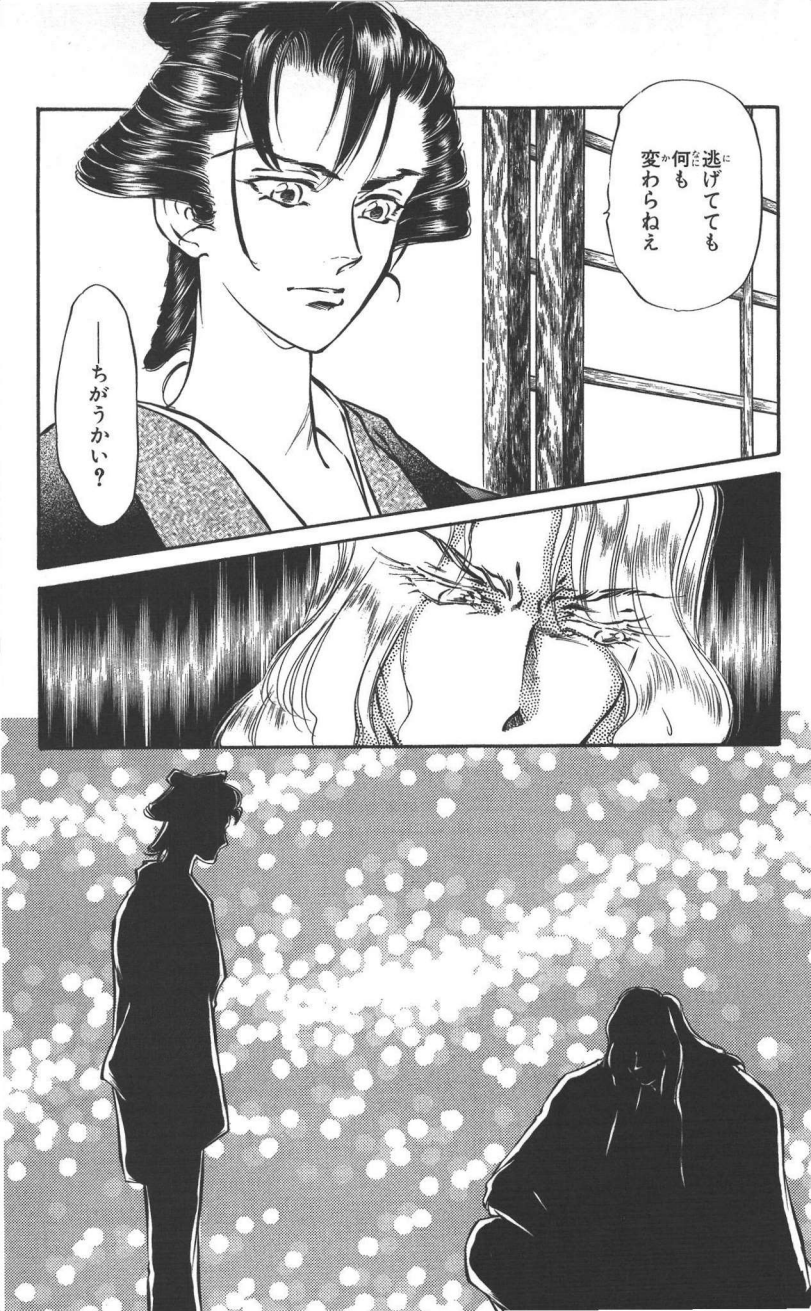

——すいやせん！
太夫がいなかったら今頃——
ポク…


ぐすっ



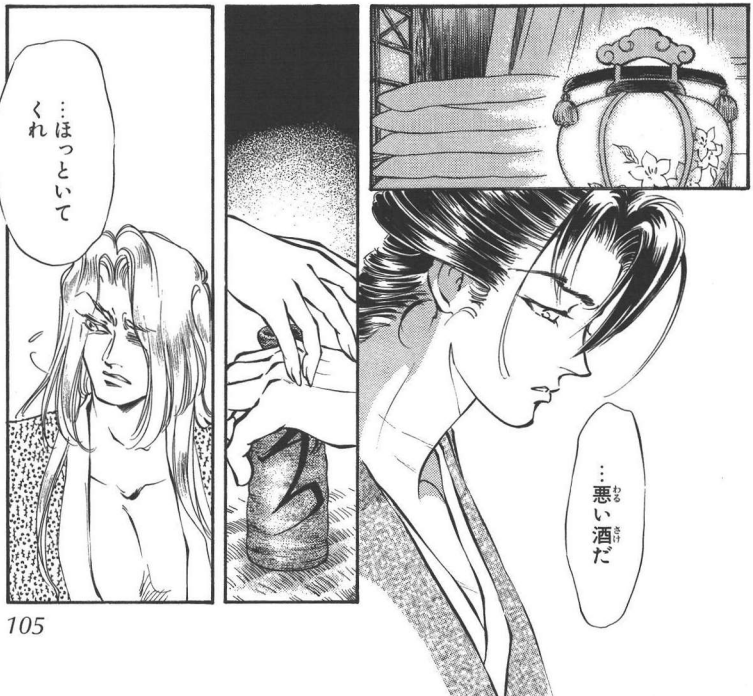





逃げてても
何も
変わらねえ
――ちがうかい？






…悪い酒だ
…ほっといてくれ


泣いちまえば
いい――


男が泣いたって
みっともねえ
ことじゃねえ
泣いて
泣いて
そして
立ちあがれるなら
そのほうが
いい――




…細い手だ…
この手で
どれほどのものを
護ろうと
している――？

…大事なものがいっぱいあるんだ

この吉原も人間も——

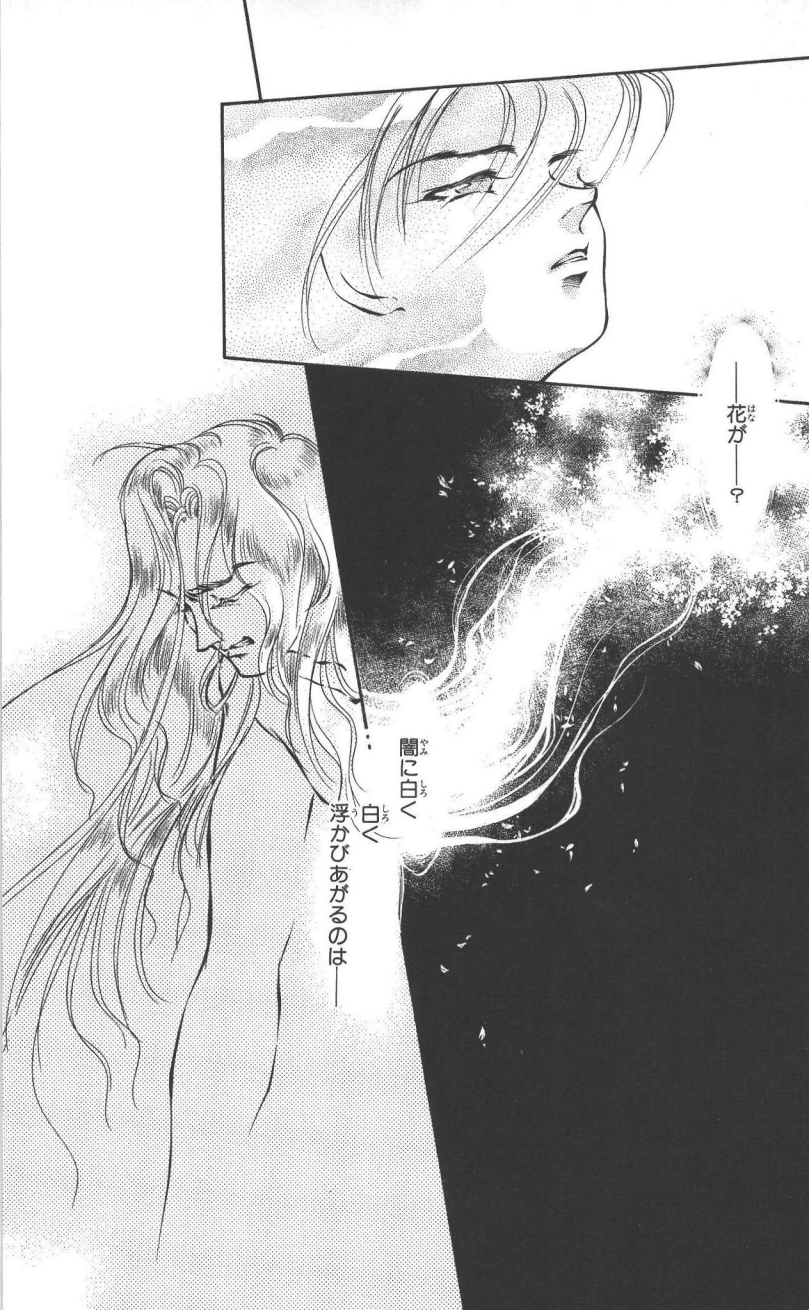


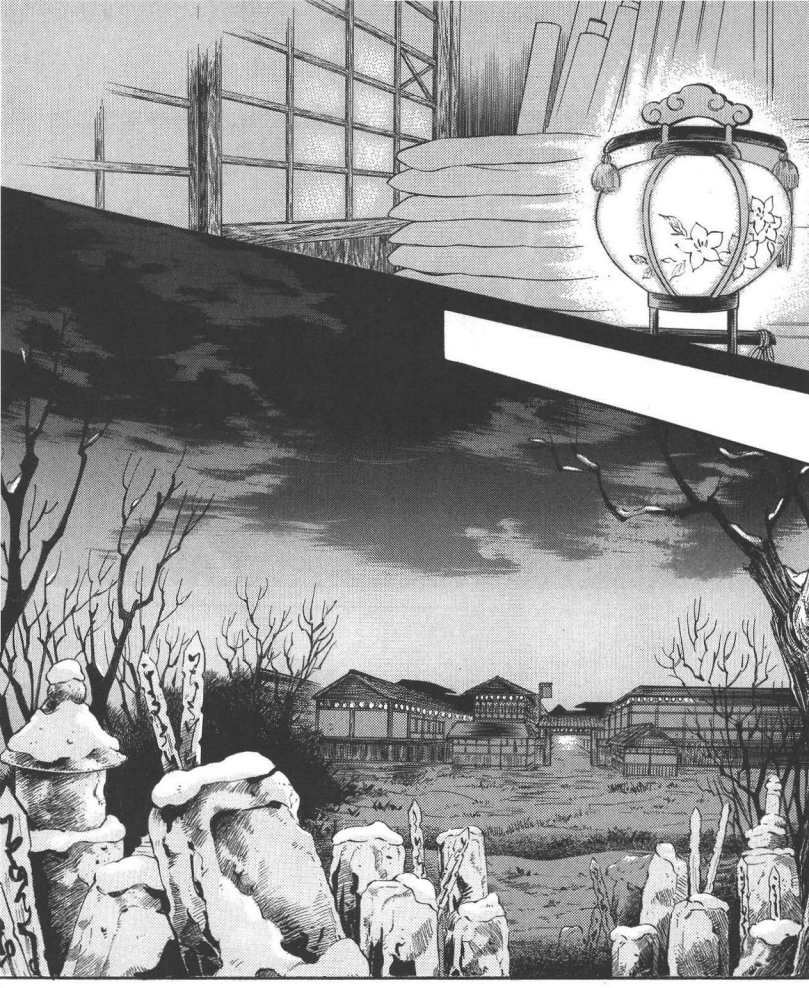
はじめて会った時

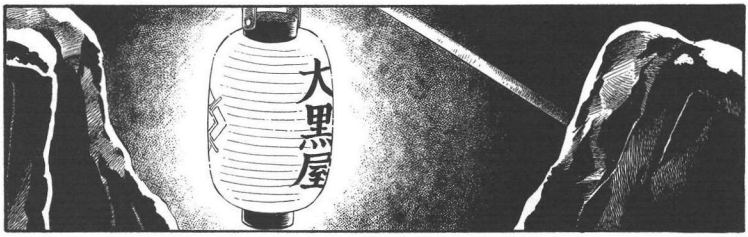
——驚いた——


どうして
この女は
剣を持つのか
こんなふうに
闘っているのかと
右も左も
わからない土地で
私は
何をすればいいのか
――と
ただ――
この女を
護りたいと
――


お笑いだ
私のほうが
よほど弱い
ククク
もう
口舌はよせ


——花が——？
闇に白く
白く
浮かびあがるのは——




大黒屋






吉原総名主
大黒屋庄六どのと
お見受けするが
…こんな年寄り
ひとりに
たいそうな
お出迎えだの


教えてもらおうか
〝月〟の在り処を


何故
わしが知る？
これほど皆で
探しても
見つからなんだ
ものを――
だからよ
刺青が
この世まで続いて
おりながら
誰も
その在り処も意味も
知らんというのは
おかしな話だ
ならば


総名主どの
あんたの他に誰が知ることができる？
……
知らんね
ならば思い出してもらおう——
ぐっ
ぐぐ…


!?
いったい何があったんだ!?
この俺に気配も感じさせず――


くうっ
弓月嵐童!!
村の皆の仇を
討たせて
もらうぜ!!

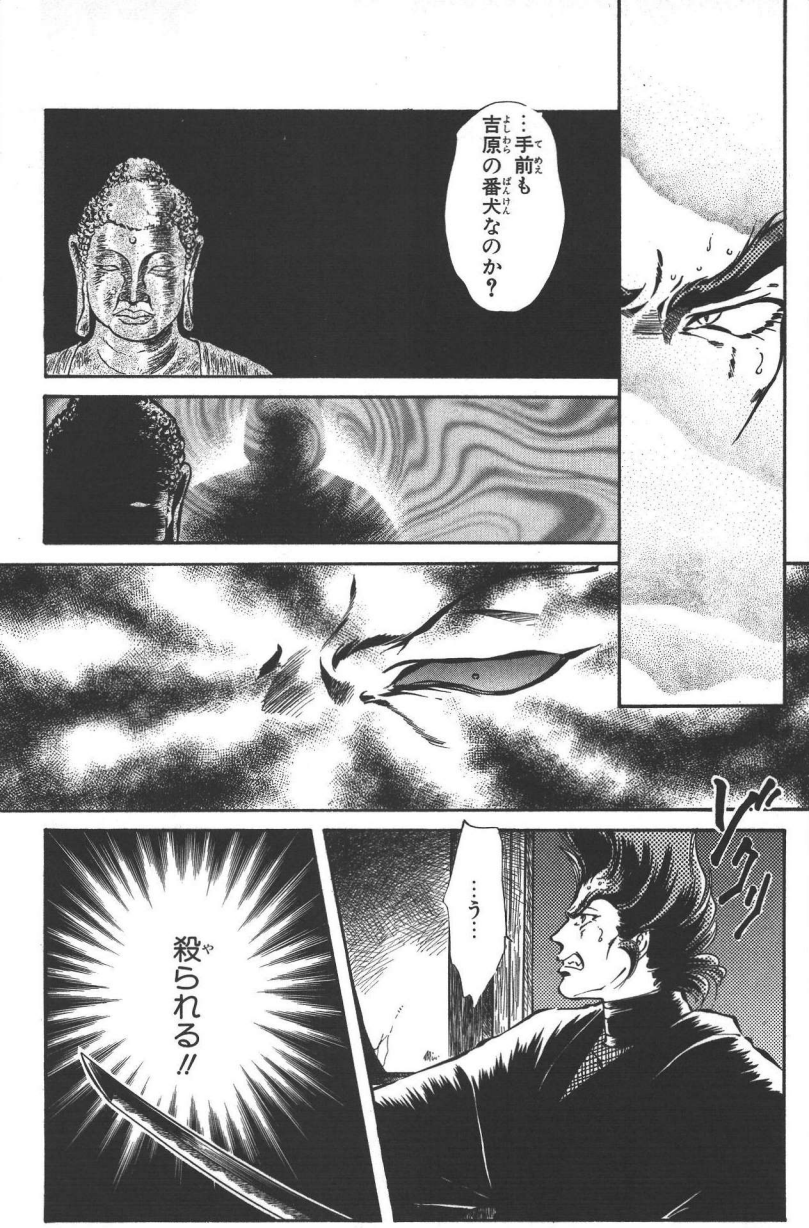

餓鬼にかまってる暇はねえっ!!
待ちやがれっ
待ちなさい
寒かったろう
温かい飲物でも進ぜよう

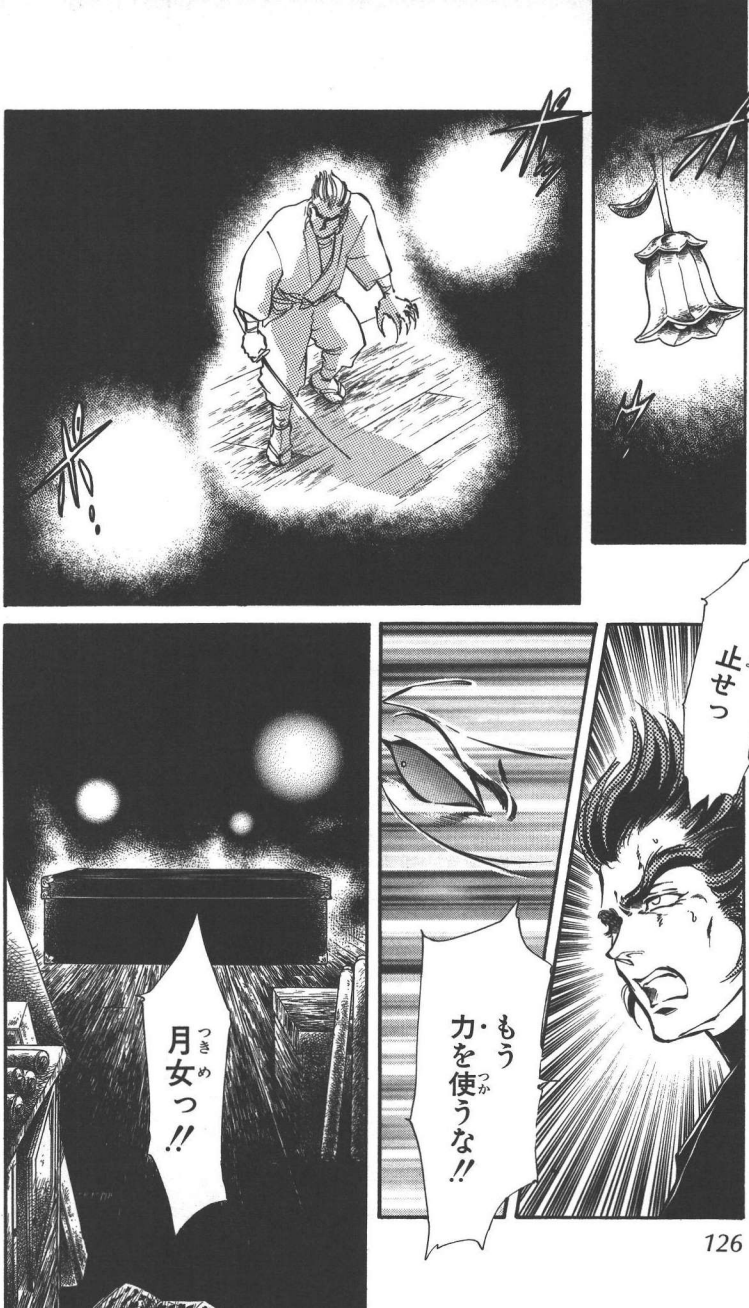

ドテッ
お前さんを
迎えに来たの
だよ
嵐童奴のあとを
追いまわして
おるやもしれんと
思うてな
すた
すた
何者だ
この爺イ!?
こんな暗い道を
迷いもせず——


美味えっ!!
…なんだよ?
たこ
たこ
そないに
一所懸命
食べてくれはると
うれしいどす


…ヘンな
ガキ！
子供（ガキ）は
お互（たが）いさま
どす


ハァ
ハァ
ギリ…
くそォ…
何者(なにもの)だ…


…手前も吉原の番犬なのか？
…う…
殺られる!!


止せっ
もう
力を使うな!!
月女っ!!


月女(つきめ)？


…
どうした？
…いや？
気のせいか――


？
御休所
なんだい？
この〝音〟は――？
大黒屋
大黒屋


大黒屋
カ


元禄16年(1703年)
11月23日 夜半
関東諸国を
大震災が
見舞う
江戸ではさらに
火災による被害
甚だしく
関東一円での
死者は
15万人を超えるとも
伝えられている


……
――月女(つきめ)――
…にい…さま…？


…会わせてやるさ
すぐにな


大門を
開けろ!!

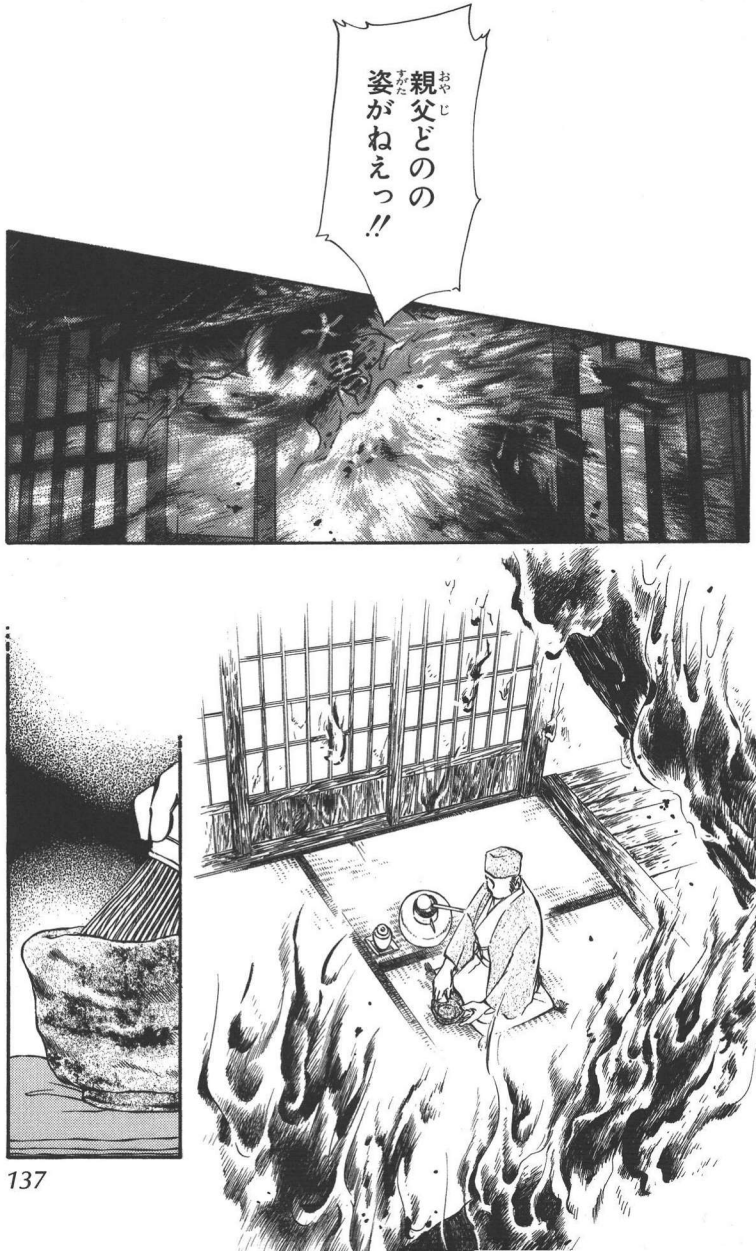

土手にむかって
川辺へ出ろ!!


慌てるねえっ


女郎を
逃がすワケにゃあ
いかねえ
馬鹿者!!


死んだら
元も子も
ねえだろォ!?


急げ!!
どうだ?
大黒屋
おおかたは
逃げおおせた
と思うが——
こうなっては
手もつけられん
はっ


親父(おやじ)どのの
姿(すがた)がねえっ!!


ふ…？
長く生きすぎるのも考えものだな？
そろそろ替わってもらおうか――


あとは任せる




結着(ケリ)をつける
よかろう

ガラ





もはや迷わん!!

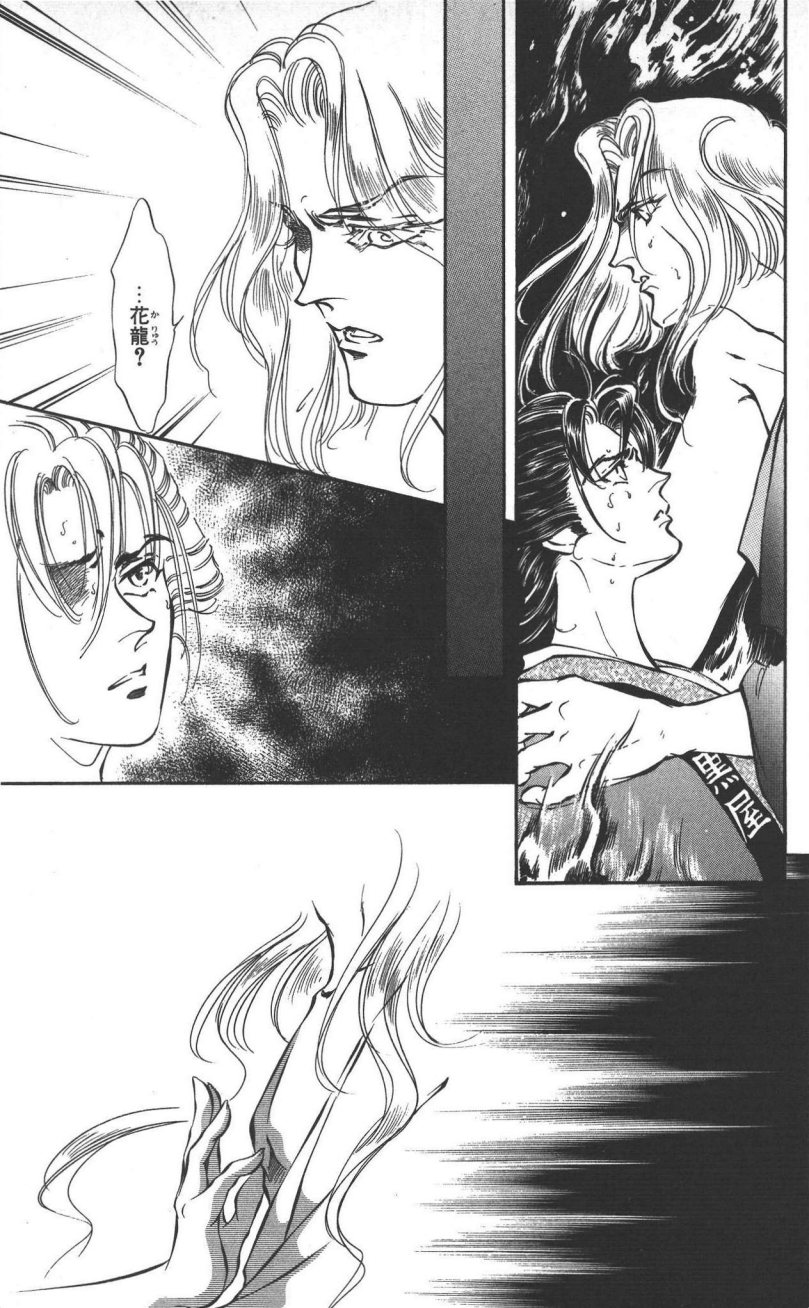



ア
バ
…ヨ…
ドサアッ
…幻兎(げんと)…


…その…
背中(せなか)——
——〝月(つき)〟!?
——?
これは——?


どこかで
見たことがある
以前にも
どこかで――？
花龍？
…こんなふうに…
夜目にも白い
白い花が
月のうえに――


花?
花龍!!
何を呆けている!?


…花龍？


親父どのをさがそう
――どうして忘れていたんだろう――




さあ
帰ろう
母様が心配してる
花龍
どうして―


…知っていたんだろう
親父どの
幻兎が
兄だということを


…あなたが知らないはずがない…
何故言わなかった!?
どうして言ってくれなかったんだ!?


お前を連れて
黄楊の郷を出た時
母が
お前と幻兎の記憶を
封じたのだ
月照院が
別の人を歩いて
ゆきましょうぞ
——お互いに——
各々の道を
歩いてゆけるように
…知って
いたんだろう


刺青の在り処も
何もかも！
ちがうか!?
知ってて——
大黒屋
大黒屋
——まさか
嵐童も
あんたが——
まさか
——なれど
良い機会とは
思うた
大黒屋
大黒屋


吉原も
創設以来
80年をすぎ
幕府よりの
無理難題が
ふえておったでな
……？
――嵐童めが
刺青を集めれば
何が起きると
思っておったか
知らぬが――
――あれは――
ふれてはならぬ
禁忌なのだ





その弱みをにぎっておるから吉原という悪所がいままで無事であったのだよ





※江戸時代、営業を許可されたものが、礼として奉行所におさめた金銭

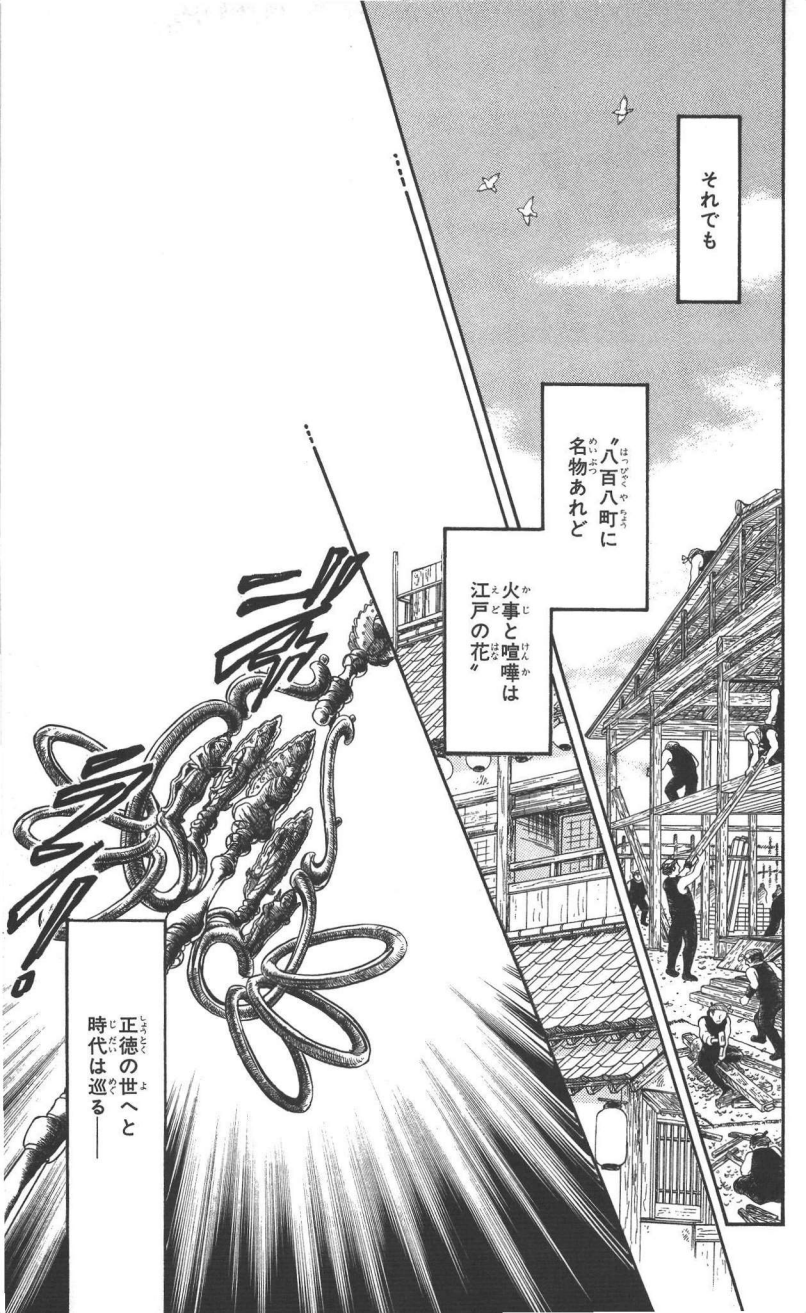

どれほどのひとが
死んだと思っている！
どれほど心を
傷つけたと
思っている!?


…実の子まで
駒のように
配うて――


…わしは
吉原総名主
大黒屋庄六
だ


ゴオッ
――父を鬼とも思え――
――花龍――
――幻兎――
人間


——三日三晩
燃え続けた
この大火で
元禄時代は
幕をおろす
両国では
木造の橋に
火から逃れた
人々が殺到
千七百人以上が
圧死

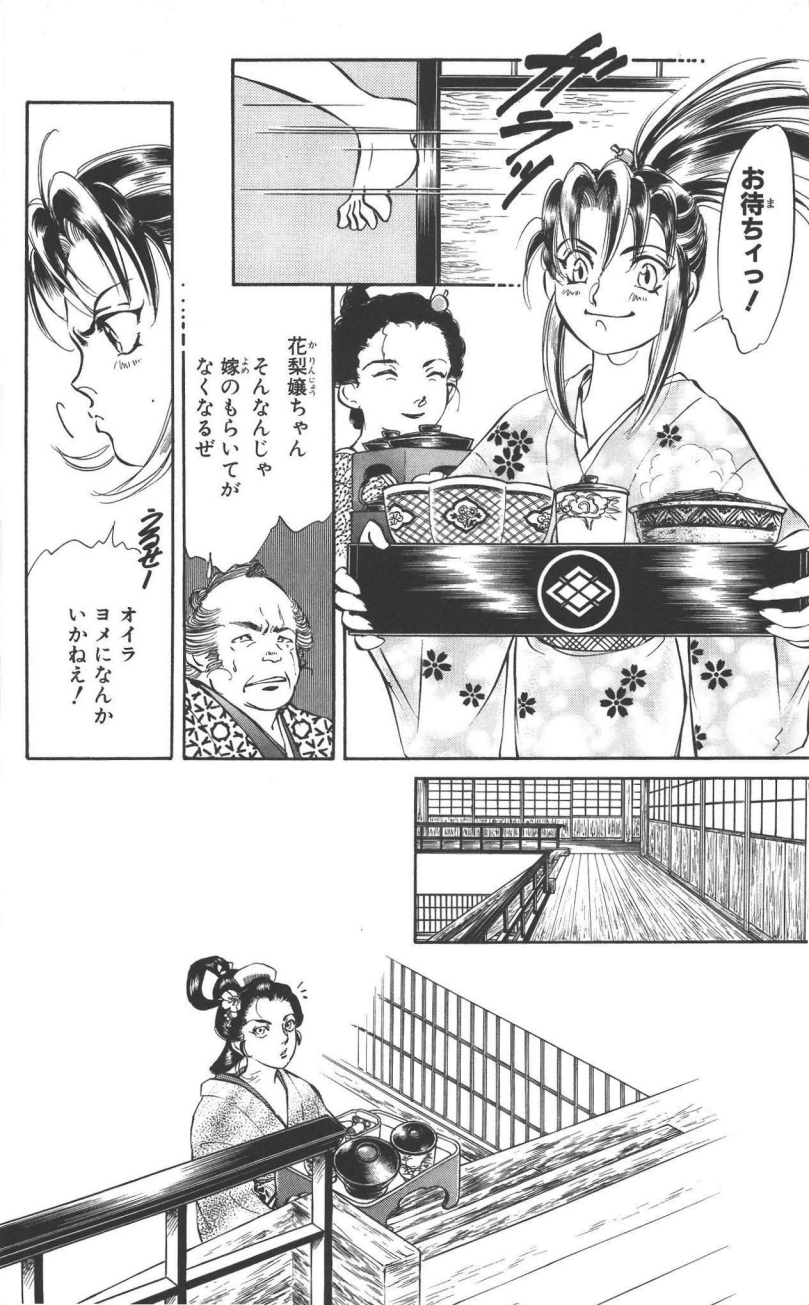

それでも
〝八百八町に
名物あれど
火事と喧嘩は
江戸の花〟
ニヤ
ニヤ
ニヤ
正徳の世へと
時代は巡る――


花魁道中だ
花魁道中
あの紋は
小紫太夫
さすがに見事な
太夫っぷりじゃ
ないか――


大黒屋
母さま！
母さま！
小紫の姐さまが来るよ
初音さまが先導だよ！


綺麗だねぇ♡
オイラも大っきくなったら初音さまのように強くなるんだ
ハイハイ
だって鯔背じゃないか
そうは思わないかい？
さあねえ
おっ母さんにはよくわからないよ


あの小柴がこれほどの太夫になるとはねえ
これで吉原も安泰じゃわ
なあ名主どの
深吉野が客にひかされて以来火が消えたようだったが
まあな
わしらも年寄りになるはずだな
よっこいしょ


ガラッ
お待ちィっ！
花梨嬢ちゃん
そんなんじゃ
嫁のもらいてが
なくなるぜ
ニヤニヤ
オイラ
ヨメになんか
いかねえ！


お前さん？
…わしは——
鬼になれるのだろうかな


先代庄六どののように
わしにできるのだろうか
娘の背に墨を入れ
重い運命を背負せることが


この吉原を護るために
総てを犠牲にすることが
……
…わしは花梨が実の子以上に可愛うてたまらんのだよ——
花梨もあければ数えで十歳
あの娘自身に選ばせたらどおどす？
——！


花梨自身が
その運命を
背負うてゆこうと
願うならば
その通りに
大黒屋
自由に
生きることを
望むならば
それも良ろし


花梨に
語って聞かせましょ
あの
華やかな女の
ことを
花龍が愛した
男のこと
この吉原の
こと――
あのふたりの
血をひいた娘
どすえ？


可能性は
なんぼでもあるや
ないですか
…うむ
――忘れたら
あきまへん
どれほど
私達夫婦が
花梨を大事に
思うとるのかも
聞かせましょ


吉原は容れ物にすぎまへん
生きるのは〝ひと〟どす
まったく――
強いなお前は
氷でできた京人形ですよって
ビー
……しょせん男は
女の強さにはかなわんのだな
今まで知らんかったんどすか？


吉原は
女の街どすえ？


…本当に
あんな廃村に
いるのか？


会って
どうする気だ
…わからねえ
何年考えても
自分ひとりじゃ
結論が出せねえから
会って顔を見て
考える
よけい
苦しめてもかね
——お前らは？
このまま
山賊暮しか？


また
宝探(たからさが)しでも
するさ
結着(ケリ)は
つけなきゃな！


アバヨ！
男女！
――月に叢雲
花に風


嵐流転の
例えはあれど
ひと夜の情けは
真か嘘か

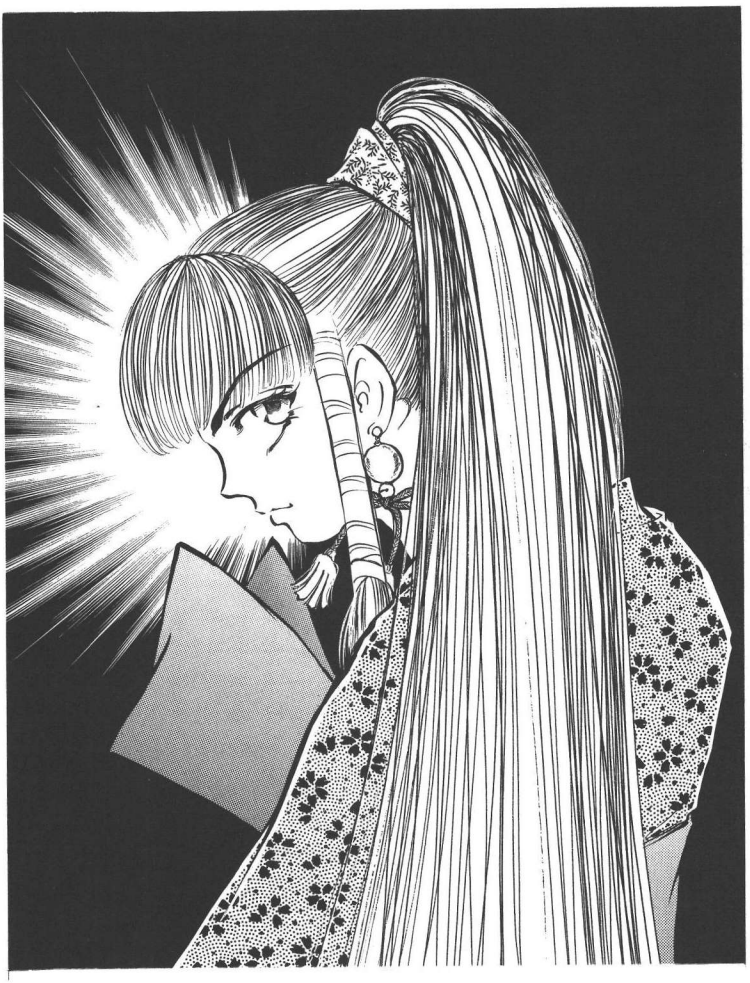

時代は元禄
お江戸の北東
そんな
吉原の物語



★花に恋して候へば 月の段★おわり

イラスト・コレクション









★イラスト・コレクション★おわり

後あがき……。

やっと「花ん恋して～　3巻」をお届けします。ハァハァ。　いえね、数年ぶりの大風邪をひきこんでしまって、気管支炎を起こしてほい、K.O寸前（いや…ぶっなあれてるんですけど。）。本当はこのコミックスも　もっと大量ん加筆ん改筆するつもりだったんですが…　ちょっと無理（泣）。最低限の加筆と修正しかできませんでした。

色々と　心残りはあるんですが…　力およばず、ってカンジで。　うん、もう一度頭のなかを整理して　また次のうちん　挑戦してみたいです。　M.時代劇は大好きっ心

えー言や、最近　TV朝の「勝武者　徳川家康」が　お気に入りです。ひさしぶりん　劇画っぽい作ってあるな、というカンジで…。無論原作の小説があれだけ　面白いワケですから、その片鱗だけでも　楽しいのは当然としても、主役の高橋英樹　がなかなか。　桃さん　久しぶりのハマり役♪　重要な役どころの秀忠や　島左近も　ハマこーまた楽しし…　お姓宗矩役の萩原流行がちょっと　ものたんないかな。（スケバン刑事Ⅱの印象と芸風一緒、とか思うのはおれだけか？（笑））　この前出てきた　お姓兵庫と助役の土門拳が　ハマこーカっこ良かなんで、ちょっと　この人で「吉原御免状」見てみたい、とか思ってはいました（笑）

（ちなみに　殿様は　阿部寛ってないぶがる）

…まあハァハァしつつ、はやく立ち直って　次の作品描かなくちゃーと心は　はやっとりますが。マンガん関しては、ちょっと　ワカホリック　ぎなみ（笑）。　根性なしぎ。

とりあえず、また次のコミックス（もちろん他社のね）でお会いできることを　祈りつつ…

1998 Spring.　JET亭.

★あとがき★おわり

《初出》
●花に恋して候へば 月の段●「ミステリーDX」1997年7月号・1998年2月号～4月号掲載
●イラスト・コレクション●「ミステリーDX」1997年6・7月号・1998年2・4月号掲載
●あとがき●描きおろし

あすかコミックス
花に恋して候へば　第3巻

初版発行……1998年6月17日

著者……JET

発行者……角川歴彦

発行所……株式会社　角川書店
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
振替＝00130-9-195208
電話＝編集部03-5229-3613 営業部03-3238-8530

印刷……大日本印刷株式会社

製本……大日本印刷株式会社

ISBN4-04-924737-2 C9979

© JET 1998　Printed in Japan
落丁・乱丁本はご面倒でも小社営業部サービスセンター宛にお送りください。
送料は小社負担でお取り替えいたします。
この物語はフィクションであり、実在の人物、団体名とは関係がございません。

ASUKA COMICS

9784049247374

ISBN4-04-924737-2

C9979 ¥390E

1929979003906

雑誌49224-44

角川書店／定価410円 本体390円

吉原が守り続ける〝花鳥風月〟4つの刺青の秘密とは何なのか？
そして、花龍・幻兎と嵐童の闘いの結末は!?
大江戸鉄火ぐらふぃてぃ、ついに完結!!

